

田んぼの学校「収穫祭」を実施しました

令和元年11月29日（金）に新地町立駒ヶ嶺小学校の5年生が、10月9日に自分たちで刈り取ったお米を使い、収穫祭を行いました。

始めに、田んぼの学校で今年取り組んできた田植え、生きもの調査、稲刈りの活動を発表し、児童と保護者で振り返りました。児童からは「お米の大切さを知った」、「生きものの棲める環境を大切にしていきたい」など多くの感想が発表され、有意義な活動であったことが伝わってきました。

次に、子ども達が待ちに待った餅つきを行いました。順番で全員が餅をつき、餅をつくの合わせて「ヨイショ」という大きな声をみんなでかけ合い非常に盛り上がりました。ついた餅は、保護者の協力のもと、きなこ餅、あんこ餅、汁餅に仕上げました。別に準備した白米は児童達によりおにぎりが作られ、全校生徒にも振る舞われました。

最後に、自分たちで作ったお餅やおにぎりを全員で味わい、収穫の喜びと併せて農業と食の大切さを改めて感じているようでした。

【田んぼの学校とは…】

田んぼの学校は、古くから農業の営みの中で形作られてきた水田や水路等を学びの場として活用し、体験活動を通してこどもたちに「農業・農村地域の大切さ」「環境の大切さ」「食・命の大切さ」についての理解を深め、豊かな感性と深い見識を持ってもらうことを目的として実施しています。



全員が餅つきを体験



おにぎりづくり



保護者と一緒にお餅の仕上げ



お餅とおにぎり おいしくいただきました